

PREMIER®
Your Pets, Our Passion®

クリッカー

Clik-R™



トレーニングガイド

このたびはプレミアの製品をお選びいただき、ありがとうございます。本製品を正しくご使用されることで、愛犬の学習意欲を促進し、信頼関係を育むことができます。製品に関するご質問がございましたら、弊社ウェブサイト (www.premier.com) をご覧いただくか、カスタマーケアセンター (0120-208-278) までお問合せください。

製品保証を最大限にご利用いただくために、領収書を保管することで、製品に関するすべての保証が受けられ、お電話でお問い合わせいただいた際の迅速な対応が受けられるようになります。弊社はお客様の大切な個人情報を第三者に提供したり転売することは一切ありません。

クリッカーを用いたトレーニング ごほうびで望ましい行動を強化する

はじめに

合図としてクリッカー音を鳴らした後に、おいしいごほうびを与える訓練方法は非常に効果的なものです。簡単であるばかりか愛犬も飼い主にも好評で学習の成功率も高いのです。

クリッカーについて

この小冊子では「クリック」「クリッカー」という言葉で統一しています。ドッグトレーニングの世界ではクリッカーにいくつかの名称があります。主なものには「プリッジ」、「マーカー」などがあります。

愛犬にとってのクリックとは人間にとてお金のようなもの、と考えてく

ださい。人間は決してお金を食べないけれども、お金を使って食べ物を買うことができます。愛犬もクリックを口にすることは出来ませんが、クリックがごほうび(フード)の「前ぶれ」だということを確実に学びます。

準備—タイミングの練習

少し時間を持って、クリックするタイミングを練習してみましょう。愛犬のいない場所で練習してください。

まずテニスボールを宙に放り投げます。ボールが地面に着地した瞬間にクリックできるかどうかやってみましょう。最初にボールが地面にバウンドしたとき、そして二回目にバウンドしたとき、といったように連続でクリックしてみましょう。

もう一度ボールを宙に放り上げ、今度はボールが空中で一番高い位置に到達したときクリックしてみてください。あなたのタイミングはちゃんとそれぞれの瞬間をとらえていますか。最初は難しいかもしれません。クリッカーを使うにも練習が必要です。あなたがタイミングをマスターするまでは愛犬のいなところで練習してください。

はじめてみよう—クリッカーのローディング

愛犬は関連付けを通じて物事を学習します。「クリッカーのローディング」とはクリック音がごほうびの前ぶれであるという意味づけをあなたの愛犬に教えることです。クリッカーに威力を発揮させるには次のシンプルな練習をやってみてください。



準備：

- まわりに気の散るものがない室内で、愛犬の注意を向けさせるため必要に応じてリードを付けた状態で行います。
- 小さくて柔らかい、そしておいしいごほうびを用意します（1日あたりの摂取カロリー量や食物アレルギーに配慮してください）。
- クリッカーを用意してください。

飼い主がクリッカーを脇、あるいは背中に持っても愛犬は十分にクリック音を聞き取ることができます。愛犬は多分その存在に気づいているので隠す必要はありませんが、愛犬にクリッckerを見せびらかすのはやめましょう。今は訓練道具本体に注意を向けさせないほうがいいのです。あくまでも音に注目してもらいたいのです。

ごほうびになるフードを手に5個握ります。クリック音を出してから1秒以内に、愛犬にフードをひとつ与えます。この訓練を繰り返し、1回ごとにフードをひとつ与えます。これを2、3日間続けます。

愛犬が問題のない行動をしている、あるいは良い子にしているときをねらうことが大事です。愛犬が吠える、あなたにジャンプしてくる、手に甘噛みする、など飼い主であるあなたが不適切と思う行動をしているときには決してクリックしないでください。好ましい行動に対してごほうびを与え続けることによって、その好ましい行動をより頻繁に引き出すことが可能になります。

この時点ではまだ特定のふるまいや行動を教えません。愛犬に対し



「クリック音を聞くと毎回ごほうびがもらえる」という関連性の一致を教えているだけです。

ほとんどの犬はこの関連性にすぐ気がつきます！何回か繰り返すうちに完全に愛犬の注意力をこちらにむけた、と実感できるでしょう。

補足:ひとつひとつのクリックは、そのあと食べ物が出てくるという約束・前ぶれです。この関係性は、しつけの上で強力な武器になります。この練習以外の目的でクリッckerを使うと、関係性が弱まってしまいますので注意してください。

クリックを予告しないで！

クリック音を鳴らす前にはいかなるボディーランゲージをも見せてはなりません。将来的に「ご主人さまがこれからクリックをするだろう」と愛犬が予測できないようにすることが大切です。

例えばクリック音を出す前、頭や腕を動かしたり、「よし」とつぶやくクセが飼い主にあると、愛犬はそれに気づきます。そうなるとあなたの動作がごほうびの「前ぶれ」の一部となってしまいます。クリックといくつかの動作を連続した「複数の合図の組み合わせ」として覚えてしまうと、後の訓練で愛犬が混乱します。

ボディーランゲージや声などは抑えてクリック音だけに注意が行くよう「クリーン」な状態に保つことを心がけてください。クリック音だけが際立つ — そのような状況が最適です。その後にごほうびを与える動作に入ります。多くの愛犬は飼い主の手を観察しています。「ご主人さまがポケットに手を入れたときはおいしいものがもらえる」と理解してしまいかがちです。そのため、あらかじめ複数のごほうびを手の中に入れておい

て1個ずつ与えるなどの工夫も必要です。あくまでもクリック音→ごほうび、という関連付けだけが愛犬の記憶に残るようにしてください。

行動の獲得とシェーピング（反応形成）

イヌの習性を利用して、「おすわり」や「伏せ」などの合図と一緒にその行動をする（獲得）ように教えることが可能です。

その行動をしそうな状況下に愛犬を置き、その行動をした瞬間にクリック音を出して、いつもどおりクリック音のすぐ後にごほうびをあげます。ごほうびをもらえた行動は繰り返す習性があるため、愛犬が再びその行動を行う可能性が高くなります。

ある程度目的の行動ができるようになったら、その行動の直前に特定の言葉や手振りの合図を付け加えます。その合図は、飼い主であるあなたが「ごほうびをあげる」意欲があることを愛犬に示します。合図の後に実際に行動を行い、さらにその後に「クリックとごほうび」を実践すれば、合図→行動→クリック→ごほうびという関連づけを行い、その行動の定着と強化が可能になります。

愛犬に新しい行動を教え込もうとしているのなら飼い主であるあなたはその行動のシェーピング（反応形成）を行わなくてはなりません。行動のシェーピングでは求められている行動に対して愛犬が前より良い試みを重ねるにつれ、トレーナーが報酬を与えます。この方法は逐次接近法とも呼ばれます。段階的に目標に向かえるよう基本ステップをいくつか設けましょう。そしてそれらを少しづつ的確にクリアできるようになった時点で報酬を与えます。毎日、4、5回練習を繰り返せば愛犬の学習も早いでしょう。

例えば愛犬を手招きしてマットの上に横たわらせようとする場合、最初は愛犬がマットに視線を向けただけで「クリックとごほうび」を実施します。次には愛犬がマットに脚をのせたとき、その次にはマットに座ったとき、そして最後には横になったときに順次「クリックとごほうび」を行うのです。

基準の設け方とごほうびのスケジュールをどう変動させるか

基準とはトレーナーが愛犬から引き出したいと考える反応を指す用語です。愛犬がその基準を達成すると、ごほうびが出てきます。つまりクリックとごほうびです。最終的な目標に向かって進歩していくにつれて基準は変えることができます。

どのような行動にもさまざまな次元やレベルがあります。「行動の質」については以下にリストアップしてあります。ひとつずつ取り組んでいけばあなたの愛犬はこれらの内容を詳しく理解するようになります。例えば特定の訓練段階ではこの中のたったひとつの項目だけに集中してトレーニングを行うのです。

実際の行動を引き出す

（たとえば飼い主であるあなたとアイコンタクトをとる）

反応に対する待ち時間—速さ

（合図があってからどれだけ早くあなたの目を見つめるか）

反応の長さ—時間の長さ

（愛犬がどれだけ長くアイコンタクトを保っていられるか）

新しいことを愛犬に教え込むとき、トレーナーは数多くの判断をしなくてはなりません。洞察力のあるドッグトレーナーはいつ、そして何を強化す

ればいいかを即決できるものです。しつけの段階に応じて、「今はどの基準でごほうびを与えるか」をあらかじめ考えておいてください。

連続強化スケジュール

(新しい行動を教えるときに最適)

飼い主とのアイコンタクトをとる、など新しいことを学ぶとき、あなたは愛犬が行った正しい行動すべてに対して強化を行う必要があります。何が「正しい反応」なのか、はあなたに委ねられています。適切と思われる反応がひとつでもあった場合は必ずごほうびをひとつ与えます。

飼い主に対する注意力の基準を上げる

飼い主と愛犬はもたつかないようにシェーピングプロセスを素早くやり上げるべきです。愛犬の視線を感じることができて、クリックとほうびが10回中8回成功しているならば次のステップに移行するときが来ています。愛犬が「こちらに目を向ける」というのはあくまでも「出来れば」という仮の基準に過ぎません。

最終的な目標に向かう途中の過渡的段階では完全を求めなくとも大丈夫です。シェーピング過程の中で一定レベルの反応に対してだけ何度も過剰にごほうびを与えると、そこで成長が止まってしまい、それ以上の力を発揮しなくなる恐れがあります。愛犬が「一番たくさんごほうびがもらえる行動しかしたくない」と心を決めてしまします。よって、このような中途の段階の訓練をしているときはそれぞれのステップで内容の8割がたをクリアできればいいのです。これだけで基礎力は十分です。途中経過の段階であまりにたくさんごほうびを与えるとそれ以外の新しいことをやる気が失せてしまう可能性があります。

ひとつの訓練セッションでひとつの基準に集中するというのはいいやり方です。しかし、愛犬に「今以上のが出来る」、あるいは「してみたい」という熱意が見られるときは躊躇せずやらせてみましょう。それだけ目標に近づいているのですからその機会を逸してはいけません。判断力が試される瞬間です。

あなたは愛犬の視線をとらえるところからレベルアップし、すでに愛犬が他のことをしている途中でこちらを向かせることに成功し、ごほうびを与えるところまで来ているかもしれません。そのとき突然愛犬が床から飛び上がってあなたに向かって走り出したとします。これは好ましい行動なので、もちろんあなたは「クリックとごほうび」を実行しなければ、と思います。しかしここで一ちょっと待った!—クリックした後、愛犬が自分に向かって飛びついてきた(これは望ましくない行動です)ことに気づきました!そんなときはどうすればいいのでしょうか?次のような考え方をしてください。

- クリックしたのならほうびをあげなくてはなりません。絶対に約束を破ってはいけません。クリッカーの威力を失ってしまうことになります。
- 誤って好ましくない行動に対してクリックしてしまいました。しかし、そのとき愛犬に謝ってはいけません。パニックを起こしてはいけません。何事もなかったように、訓練を続けましょう。
- 間違いを犯したことでタイミングや集中力がぶれないようにしましょう。大丈夫です。訓練を続けて下さい。失敗が一度だけなら、その後正しい行動を繰り返すことで上書きしていくことができます。
- 毎回、訓練セッションの終わりに静かに考える時間を持ちましょう。次のページでシェーピングについてより詳しく説明します。

行動のシェーピング（反応形成）—概要

ここでは今までと異なる言葉でシェーピングプロセスの概要を解説します。次のセッションを始める前にこのプロセスについて無理なく馴染めるようにしておいてください。

シェーピングの段階で愛犬はあなたのトレーニングパートナーとなり、何がごほうびを引き出すのかを常に見定めています。愛犬の行動を小さなかたまりに細かく分断し、それぞれに対して素早くクリックしてごほうびを与えられるようになる必要があります。観察力・判断力のあるドッグトレーナーが実力を発揮するのはシェーピングのときです。

もしも段階的なステップをさっと流すように終わらせていたのなら、愛犬の行動は劣化してしまう恐れがあります。なぜならいきなりたくさんのことを求めてしまっているからです。しかしながら、あまりに遅々とした進め方の場合も行動が劣化してしまいます。愛犬が興味を維持できないからです。

いつ基準を上げたらいいかの目安は、愛犬が今いる段階の課題を8割がたクリアしているときです。それぞれのステップで100パーセントの達成率を目指すのは非現実的であるばかりか、次のステップに進んだときに強化されすぎた基準を変えるのに苦労してしまうこともあります。これは愛犬にとってもまわりの人間にとっても、時間と労力の無駄です。

ランダム（不規則）なごほうび

8割がた愛犬が課題をクリアできるようになれば、次はいわゆるランダムな「宝くじ方式」へと進みます。今までの連続的なごほうびから離れ、少しランダムなやり方へと変えていきます。

ランダムなごほうびとは、愛犬が好ましい行動を見せて毎回確実にはごほうびを与えない、という意味です。愛犬がいったいどの行動に対してごほうびをもらえるか予測できないように、報酬は一定の時間を置く間欠的かつ予測不可能な形で与えます。特定のパターンはありませんが、報酬を与えるときには好ましい行動と関連付けてただちに与えます。

この手法はすでに学習済みの行動を存続させるときに最適です。多くのトレーナーは2回で1セットからはじめます。つまり、愛犬が報酬を得る

ために同じ行動を2回繰り返して行うことを求めるのです。2回で1セット、3回で1セット、4回で1セットなどのように、それらをランダムに繰り返し行ってください。



スロットマシンを思い浮かべてください。これはまさに「ランダムなごほうび」の好例です。ある時はギャンブラーに対して報酬を与えることもあるけれど、負けてしまうこともあります。しかし、人々は大きな見返りを求めてついにプレイしてしまうのです。

こういったランダムなやり方は愛犬に対して投げ出さずに忍耐強くなることを教えます。釣り人と同じことです。釣り人は、一日中糸を垂れてい

てまったく釣れなくても、次の週末にはまた時間をさいて釣りザオ持参でいそいそと出かけます。なぜでしょうか? いつか大物が釣れるにちがいない、と信じているからです。あなたの愛犬についても同じことが言えます。ごほうびによる訓練で一番失敗しやすいのは、常に与えられていたごほうびをランダムなごほうびへと切り替えられないことです。この点を訓練プランの中で十分考慮してください。

注意! ごほうびなしのクリックでは「ランダムなごほうび」訓練にはなりません。クリックとごほうびの結びつきを弱めるだけの結果になります!

分化強化

この方法はランダムなやり方の応用編です。まったくランダムに報酬を与えるのではなく、愛犬が見せたもっとも素晴らしい行動をひとつだけピックアップし、その行動に対してのみごほうびを与えます。それ以外の動きは無視します。何が最高なのかを決めるのはあなたです。訓練を始める前、頭の中で「最高の行動」を明確に描いておいてください。

例えば、素早い反応、あるいは待ち時間が短いことを重視する飼い主もいれば、長時間のアイコンタクトを求める人もいるでしょう。明確な基準を一点クリアすることだけに主眼を置いて練習し、その行動のみを労うことで行動や動作を改善させましょう。この間、他の目標は緩和させるかハードルを下げる、あるいは一時的に無視してもいいでしょう。

ジャックポット(大当たり)

トレーナーたちは「ジャックポット原則」をさまざまな形で応用します。一般的にジャックポットとはかなり希少価値が高く、予期しないごほうびのことを指します。愛犬がびっくりするほど素晴らしい動きを見せたときなどにトレーナーはジャックポットを使います。ほとんどのトレーナーは

訓練中の大きな壁を突破したときまでジャックポットをとっておきます。しかし平均的なパフォーマンスに対し、たまにジャックポットを使うことは悪いことではありません。多大な努力を要したときだけでなくもいいのです。実際にスロットマシンで遊んでいても、幸運に当たる人はランダムです。その人が特に上手にレバーを引いたから、ではないのです。

ジャックポットには次のような使い方があります。

- 普段ドライフードをごほうびとして与えているのならより価値の高いレバーをジャックポットとして使えます。
- 普段、小指の先ほどのチーズを与えていたのなら、親指の先ぐらいためのものをあげることがジャックポットに相当します。
- 一度にひとつだけごほうびを与えていたのなら、食べ物をいくつかまとめ、連続で与えればそれがジャックポットに相当します。
- 飼い主に食べ物を差し出されるよりも自らごほうびの袋に鼻を突っ込んでごちそうをほおばることこそ最高のごほうびだ、と考える犬もいます。
- 普段から食べ物をごほうびとして与えていても、ボールやひっぱりっこが大好きな愛犬に対してはそのようなおもちゃでいっしょに遊んであげることがジャックポットになります。
- ジャックポットはたまに使うことで最適な効果が得られます。

スランプに陥ったのなら、クリアすべき基準を減らすか、ジャックポットの内容を事前に見せ、好ましい行動へと関連付けさせます。



刺激コントロールと円滑さ

愛犬が特定の合図に対してどのように反応するか。その反応のさまざまな側面を指す用語を「刺激コントロール」と呼びます。もし以下に当てはまらない場合、その犬は刺激コントロールの支配下にあるといえます。

- ・合図されても行動を起こさない
- ・合図されていないのに行動を起こす
- ・異なる合図に対して行動を起こす
- ・合図に対して毎回異なる行動を起こす

ごほうびを使ってしつけられた愛犬は、後ろの3つのような間違いの方が多くなります。それは愛犬が訓練・しつけに夢中になっているからです！

「ごほうびをもらうには何をしたらいいの？」というゲームは犬にとって楽しくて仕方がないのです。

円滑さとは愛犬がいかなる状況にあっても特定された行動を実行するということを指します。円滑さを培うにはまわりの雑音など気を散らすものを増やしたり場所を変えたりします。

- ・散歩に出ているとき外で合図をする。
- ・円滑さを構築しているときには、一度にひとつずつ愛犬のまわりの状況を変えてみる。
- ・あまりにたくさんの事項を変えてしまうと愛犬を混乱させ、誤った行動を取らせてしまいます。あくまでも愛犬が正しい動作を行えるよう条件を整えてあげましょう。

訓練時間は短く

1回の訓練を3分から5分ぐらいにとどめ、訓練と訓練の間に休み時間を入れることをおすすめします。愛犬のやる気や興味が失せていない段階で、愛犬がお腹を空かせているうちに訓練を終えましょう。過剰なトレーニングは避けます。愛犬が「もっとやりたい」と思っているうちに止めるのが最適です。

ターゲット(目標物)に触れることを教える

まずは鼻あなたの手に触れる「ノーズタッチ」を愛犬に教えることからはじめましょう。後々愛犬にさまざまな行動を教えるときに応用できます。

「飼い主の手」というターゲットを教えるにはまず愛犬から約10センチメートル離れたところに手をかざします。ほとんどの犬は手の匂いをかぎにくるでしょう。愛犬の鼻が手に触れた瞬間「クリックとごほうび」を実践します。これを4、5回繰り返します。愛犬が手に触れるにあまり興味を示さない場合は触れてもらいたいほうの手においしいごちそうを握って何回か練習してみましょう。

「クリックとごほうび」に対して愛犬が鼻でさっと手に触れるようになったなら手を少しずつ遠ざけたり、上下左右に動かしたりします。愛犬が手に触れるたびに「クリックとごほうび」を繰り返します。もし愛犬が反応するのに3、4秒以上かかるときはいったん何秒か手をどかし、もう一度手を愛犬の間近にさし出します。1回の練習中でこれを4、5回素早く繰り返すことに集中してください。

飼い主の手というターゲットに確実に触れさせられるようになると、愛犬を思うように誘導して歩かせたり、伏せ、おすわりなどの姿勢を取らせることができるようになります。

クリッカーを使った楽しいトレーニングのヒントが
www.premier.comでご覧いただけます。

ラジオシステムズコーポレーション
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-25-9
14201 Sommerville Ct., Midlothian, VA 23113 USA
カスタマーケアセンター
 0120-208-278
www.premier.com

©2011 Premier Pet Products, LLC
400-1307-18